

ごみの分別から始める脱炭素

■ 進行する地球温暖化

二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスは、熱を逃がさない性質があります。

大気中のCO₂が増えすぎて、地球にたくさんの熱が閉じ込められ、地球全体がまさに温室のようにになっている状態が地球温暖化です。

地球温暖化により、環境が少しずつ変化し、様々な異変が起こります。

このまま何もしなければ、100年後の気候は…



滝のように降る雨
2倍以上増加



平均気温4℃以上上昇
猛暑日が27日増加

■ 体感する気候変動 ～厳しい横浜の夏～

横浜市の2025年の夏(6月～8月)の最高気温は**38.1度**で、過去最高を記録しました。

また、2025年の夏の真夏日の日数も、2023年と並んで**84日**、猛暑日も2024年に次いで14日となり、猛烈な暑さに見舞われました。

※真夏日…最高気温が30度以上の日

※猛暑日…最高気温が35度以上の日

	1993年	2003年	2013年	2023年	2025年
最高気温	32.9℃	33.8℃	37.4℃	37.3℃	38.1℃
真夏日	18日	35日	56日	84日	84日
猛暑日	0日	0日	4日	9日	14日

出典:気象庁ホームページ

■ ごみの分別が脱炭素につながります

ごみを分別し、燃やすごみの量を減らすことは、貴重な資源を守るだけでなく、ごみの焼却によるCO₂排出量を削減することにもつながります。皆様の日々の分別行動は、地球の未来を守ることに繋がっています。



ごみ焼却のCO₂カット!

プラごみを分別して、リサイクル

分別以外にも!

横浜はGO GREEN!

環境にやさしい行動を、できることから始めましょう!

横浜市では、2050年の脱炭素社会の実現に向け、市と市民・事業者の皆様が丸となって脱炭素・環境施策を推進するためのスローガン「YOKOHAMA GO GREEN」を掲げ、「環境にやさしい行動」を推進しています。

私たち一人ひとりが、CO₂排出量を減らすため、ごみの分別以外にも、日常の小さな場面で、環境にやさしい行動を実践することが重要です。

暮らしの中の少しの工夫で、できることから始めませんか。

電気のCO₂カット!



照明をLEDに

電気のCO₂カット!



エアコンの温度
冷やしすぎない・
暖めすぎない

移動のCO₂カット!



徒歩や自転車で
でかけてみよう



「YOKOHAMA GO GREEN」
ロゴマーク

イラスト出典:「脱炭素なくらしのきほん」(横浜市)

ヨコハマ プラ5.3計画を 進めています

脱炭素社会の実現に向け、プラスチックごみに重点をおいた「ヨコハマ プラ5.3計画」
(2023～2030年度)を策定し、取組を進めています。

■ 目標

燃やすごみに含まれるプラスチックごみの量を
2030年度までに2万トン削減

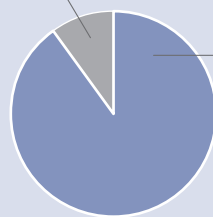
1人あたり年間
5.3kg削減
(2022年度比)

■ なぜプラスチックごみの削減が目標なの？

ごみ処理の際に排出されるCO₂の
約9割が、プラスチックなどの石油
由来のごみの焼却によるものです。
そのため、「ヨコハマ プラ5.3計画」
では、プラスチックごみの削減を重点
としています。

〈横浜市のごみ処理に伴い発生するCO₂の内訳〉

収集車からの
排気ガスなど
約10%



プラスチックなど
石油由来のごみの
焼却による排出
約90%

■ 5.3kg削減に向けて今日からできる取組をはじめよう！

使い捨てのスプーンや
フォークは必要な分だけ
受け取ろう



マイバッグや
マイボトルを活用しよう



プラスチック資源は
分別して出そう



「ヨコハマ プラ5.3計画」に込められた思い

プラスチックごみの2万トン削減の目標達成には、市民1人
あたりで換算すると5.3kg削減していく必要があることから、
名称に「5.3」を含めています。

「5.3」は「ごみ」と読み、市民・事業者・行政がプラスチックごみ
削減に向けて協働していくことを目指しています。



ごみ出しの
ルール
分別の種類

プラスチック
資源

缶・びん・
ペットボトル
小さな金属類

古紙・古布

燃やすごみ

燃えないごみ
スプレー缶
電池類

粗大ごみ

市では
収集できない
ごみ

小型家電
製品

資源物の
直接持ち込み・
回収など

動物の
死体処理
不法投棄など

ごみ出しの
支援・減免
集積場所の
設置など

災害時の
ごみ

資源物の
リサイクル

脱炭素
プラ5.3計画

問合せが多い
分別品目